

ことばの学び

a new way of learning Japanese

『小学生の国語』臨時増刊号

特集 読みの力を高める

学習指導 vol.2

教材文の特質を生かした わかりやすい学習指導

「読みの力」を高めるためには、指導内容に適した教材が必要です。また一方で、それらの教材文の特質を生かした学習指導が求められます。

『小学生の国語』では、わかりやすく力のつく学習指導を全学年で実現するため、それぞれの学年の指導内容に適した教材を、系統的に配列しています。

今回は、「特集 読みの力を高める学習指導」の第二弾として、二年「たねのたび」、四年「いわたくんちのおばあちゃん」、六年「紅鯉」の三教材をご紹介します。教材文の特質を生かした言語活動や、子どもたちの思考を促す発問など、読みの力を高めるための具体的な手立てをご提案します。

教材・授業研究、ご実践にご活用いただければ幸いです。

目次

「たねのたび」

2年 説明文

順序という大事な考え方を扱う学習
―筆者になりきって「たねのたび」を説明しよう―

……2

「いわたくんちのおばあちゃん」

4年 物語

物語の構造で作品をとらえる
―二つの時代を結ぶ戦争の体験と「家族写真」―

……4

「紅鯉」

6年 物語

人物関係図を生かした読むことの指導
―さまざまな関係の中で揺れ動く「ぼく」の思い―

……6



たねのたび

順序という大事な考え方を扱う学習 — 筆者になりきって「たねのたび」を説明しよう —

1 順序とは

低学年の説明的な文章の読解指導では、常に「順序」という指導事項が意識される。日常的にもよく耳にする言葉である。しかしながら、指導の際は、扱いの難しい考え方である。問題は、一口に順序といっても、多様な規則性や効果が含まれる点である。

学習指導要領では、順序について大きく三つ示している。「時間的な順序」「事柄の順序」「文章表現上の順序」である。

指導の際は、教材文に表れる順序がどのような規則性をもっているのかを特定する。そして、順序がもたらす効果を子どもたちに読み取らせる手立てが必要となる。

指導において重要なことは、どのような関係に気づかせるのかを明確にすることである。

2 筆者を意識した読み

文章における順序やその効果を低学年の子どもたちがとらえるためには、筆者を意識す

ることが手立てとなる。順序に対して、筆者がなんのために行った工夫なのかを考えることで、課題がイメージしやすくなる。指導者も「筆者はどうして……」という問いを、一貫して投げかけることができる。

ここで重要なことは、子どもたちが気づく順序やその効果を、教材となる文章が備えているのか、ということである。関連性が薄いものであったり、一貫性がなかったりした場合は、指導が難しくなる。

二年の教材「たねのたび」は、事例の説明や挙げられる段落の順序が、驚くほど意図的に関連して構成された文章である。

3 教材について

「たねのたび」は、植物が繁殖のために種を使って行うさまざまな工夫について述べた説明的な文章である。構成は典型的な尾括型であり、オオオナモミ、タンポポ、カラスノエンドウを事例として挙げている。



たねのたび

道ばたやあきちには、だれかがたねをまいたわけでもないのに、たくさんのお花が生まれています。

これらのお花のたねは、どのようにして、やって来たのでしょうか。

オオオナモミは、人や犬などのどうぶつに、たねをはこんでもらいます。

たねが入っているみは、たくさんのとけておわれていきます。どうぶつが近くを通ると、みは、ふくやけにひっつかかって、くっつきます。どけの先がまがっているの、いちどくっつくと、かんたんにははずれません。それで、いろいろなところへ、はこんでもうここがてきめるのです。

でも、どうぶつが通るところにみをつけないければ、たねをはこんでもうここがてきません。

そこで、オオオナモミは、ちよと人や犬の体。のたかさくらいにえだをのぼして、みをつけるのです。

本教材には、二つの順序が含まれている。

ア事例に挙げられた植物の種の繁殖に関する説明の順序、イ事例を挙げる順序である。これらに関わる段落は、それぞれ無理のない順序で構成されている。子どもたちが順序

に気づき、筆者の意図を意識する学習に適した教材である。

4 順序の効果を読み取るための指導

順序の効果を読み取るためには、まず順序に気づくことが必要である。そして、筆者を意識して順序の効果を考え、文章全体を読み取る。

○順序の工夫に気づく

先に述べた本教材の二つの順序とその効果は、異なるものである。

「ア」の事例の説明の順序は、①「種が運ばれる方法」、②「種そのものの特徴」、③「①の方法を可能にする条件」、④「③の条件を満たすための生態」、というものである。

ただし、「ア」の順序は、三つの事例がいずれも同じ順序で説明されていることに気づいてこそ、意味をもつ。三つの事例において、③は、必ず「ても」という接続語が始まる。ここに着目することで、「ア」に関する順序に気づくことができる。三つの事例が同じ順序で説明されていることに気づかせ、読み手にわかりやすく伝える効果をもっていることを押さえない。

「イ」の事例を挙げる順序は、文章全体に関わ

るもので、カラスノエンドウの事例を強調する効果をもっている。「力をかりずに、自分で種をとばします。」という言葉に着目して、筆者の意図を読み取ることになる。「このように、……」に述べられる一文に着目すれば、事例の順序との関連に気づくこともできる。

○筆者を意識して順序の効果を考える

筆者を意識するために、筆者とインタビュアーになりきる活動を設定する。ペアでインタビュールしたり、ノートに吹き出しを付けてまとめたりする。「ア・イ」の順序についてもこの活動の中でとらえさせられる。指導のポイントは何を尋ねさせるかである。順序が生み出す効果について質問させる必要がある。

Q 三つの植物の種が同じ順番で説明されているのはなぜですか？

「ア」についての質問である。「質問作り」という展開でも、「文章から答えを考える」という展開でも設定できる。

次に、「イ」についての質問と、想定される答えである。

Q どうして、オオオナモミ、タンポポ、カラスノエンドウという順番で説明したのですか？

A 自分の力で種を運ぶカラスノエンドウの工夫を強く伝えなかったからです。

A だんだん難しい方法で運ばれるものを紹介したかったからです。

質問の答えは、一つではない。答えを全体で吟味することで、読み取ったことを整理することができる。

指導者は、順序の規則性や効果について言及しているかどうかを見取る必要がある。そのためには、授業の中で順序の効果や工夫を説明する言葉が明示されていなければならぬ。例えば、「読んでいる人に」「強く伝えたい」「わかりやすく」などである。

5 年間を通じた指導

二年の三学期には「紙パックで、こまを作ろう」という教材がある。これは、おもちゃ作りについて、手順や遊び方を述べた説明的な文章である。身近な話題でもあり、作業的な順序を読み取ることに適している。つまり、「たねのたび」とは異なる規則性や効果をもった順序について学ぶことができる。

一つの教材でさまざまな順序について扱うのではなく、教材文に応じた学習指導を年間を通して行う必要がある。

4年
◆◆◆
物語

いわたくんちのおばあちゃん

4年
68ページ

物語の構造で作品をとらえる —二つの時代を結ぶ戦争の体験と「家族写真」—

1 物語の構造を読む

文学的な文章を読んで物語の構造をとらえる学習をすることは大切である。中学年では、場面の移り変わりをとらえて作品を読むことが求められる。場面がどのように構成されているのか、作品全体がどのような構造になっているのか、深く読み味わうために必要な読みの力である。

物語の構造は、場面の場所や時間、ファンタジー性など、さまざまな要素によってとらえることができる。

例えば同じ作品の中で、過去(回想)・現在・未来を描くもの、ファンタジー作品であれば現実と非現実とが移り変わるものがこれに当たる。また、作品によっては二重、三重の構造をもつこともある。

中学年では、時間や場所といった、子どもたちがとらえやすい要素によって作られた構造をもつ作品を通して指導したい。

さらに、物語の構造に関する指導において

重要なことは、構造をとらえることで読みが深まるという学習を展開することである。

2 作品について

四年の教材に、「いわたくんちのおばあちゃん」という作品がある。本作は、主に原子爆弾が投下される日の広島を舞台にした文学的な文章である。ただし、冒頭と結末の場面は、現代である。当時の広島の様子は、小学校における平和学習として、「いわたくんちのお母さん」が「いわたくんちのおばあちゃん」の体験として語っている。約六十年の年月を隔てる現代・過去・現代という物語の構造になっている。この構造の価値を考慮することが、作品の深い理解につながる。

3 物語の構造を生かした指導

「いわたくんちのおばあちゃん」における構造は、時間を基にしたものである。現在と過去を意識して作品を読むと言い換えられる。



現在と過去を意識して共通点や相違点に気づかせると、次の三つのことに焦点化して読むことができる。それぞれに子どもたちが気づくためのポイントがある。

①過去と現代をつなぐ「おばあちゃん」と「家族写真」

現代・過去・現代という構造の中で、どの場面にも共通するもの、文章全体を通して存在するものがある。時代を生き抜いた「おばあちゃん」と「家族写真」である。

過去において「おばあちゃん」は、「ちづこ」「ちいちゃん」として登場する。「おばあちゃん」の存在は、各場面における登場人物の行動を整理することで、場面の様子の違いともにとらえることができる。

「家族写真」は、場面が現代に戻った状況でその逸話が語られる。「おばあちゃん」の心情を読み取る際に、「家族写真」を生かしたい。「おばあちゃん」の原爆投下直後の恐怖や混乱喪失感、場面の描写から読み取ることができ。子どもたちは、家族を失った悲しみについて一様にとらえることができる。さらに深く「おばあちゃん」の心情を想像するためには、一人ぼっちになってから「家族写真」を受け取る「おばあちゃん」の心情に着目する必要がある。

②「おばあちゃん」の想い

作品の中で「おばあちゃん」は、カメラを

向けられると、「いやあよ。」と言って断る。

そして、その理由を「ぼく」は知っている。作品の最後の一文で語っている。しかしながら、「おばあちゃん」が写真を撮りたがらない理由は、叙述として描かれていない。過去の心情から類推することになる。

・家族を失った悲しさがよみがえる。

・たった一枚の写真を大事にしたい。

子どもたちの多様な読みが発揮される。指導者は、①に示した「家族写真」を受け取った時の心情と関連させるように指導する必要がある。

③事実を伝えるためのお話会

現代の場面では、「ぼく」が平和学習の一環で「いわたくんのおばあちゃん」の体験を聞いている。本作が、原爆投下の悲惨な事実だけを描くのではなく、それを伝える人たちをも描いているということである。

本作を通した学習では、次のような発問で、子どもたちの文章全体に対する考えをまとめることができる。

なぜ、「おばあちゃん」はお話会に参加したのだろう。

「おばあちゃん」の体験を語るのは、「いわたくんのお母さん」である。叙述には「といっても、おばあちゃんは、しずかに車いすにすわっとるだけだったけど。」と記されている。体験を伝えるために参加した、という単純な想いではない。

③では、物語の構造をとらえたうえで、現代と過去を意識し、先述した①②を基に考えることが求められる。過去についての読み取りは、現在の「おばあちゃん」の行動や心情に関連している。「おばあちゃん」について読み取ってきたことを整理し、何を想って子どもたちの前にいるのか、まとめられるようにする。現在・過去・現在という構造を踏まえた読み取りの場面となる。

4 作品の力を生かした指導

「いわたくんちのおばあちゃん」は、我が国における戦争という悲劇を伝える作品である。作品を読み、戦争について自分なりに考えていくことは、重要な学習である。文章を通して伝わることはあるはずである。

メッセージ性の強い作品は、描写や構造に特徴がある。戦争というテーマであるからこそ、作品の力を生かした読みの指導を実現したい。

4 登場人物の関係を基にした読解指導

本作においては、二つの関係を中心に扱うことで、作品を読み深めることができる。

関係① 「ぼく」と「わし鼻のおじさん」

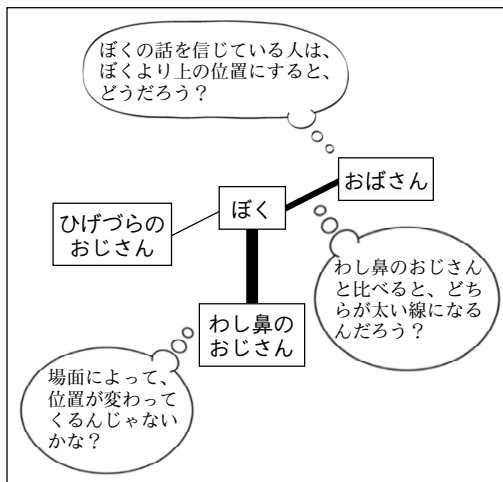
「わし鼻のおじさん」は、山場の場面で「ぼく」が精神的に追い詰められるきっかけをつくる相手である。同時に作品の中で唯一、複数の場所で「ぼく」に遭遇する人物である。作品の中心となる両者の関係を押さえることで、作品全体の展開、場面の移り変わりもとらえることができる。

関係② 「ぼく」と「おばさん」

「おばさん」は、「ぼく」の心情の変化において重要な役割を果たす。「ぼく」と「おばさん」との関係に着目させることによって、作品全体を通した心情の変化や終末部における「ぼく」の心情を、深く読み取ることができると

関係①②について、人物関係図を用いてとらえていく。図は「ぼく」の視点から見た関係を表す。線の長さは「ぼく」から見た親しさ、太さは影響力である。また、基準となる位置関係は、「ぼく」と最終的にペンゴイを捕

まえた「ひげづらのおじさん」である。①の関係を表す際には、「ひげづらのおじさん」と「わし鼻のおじさん」の「ぼく」に対する行動や影響を比較しながら、位置や線を考えることになる。例えば次のような図に表すことができる。



作図の際、教師は位置関係や線、四角・丸など図形の工夫について説明を求めると子どもたちは、吹き出しに表したような疑問をもつて考えることになる。図に行動や心情を書き込み、全体で話し合うことで、読み取りを深めることができる。

次のような投げかけて、子どもたちは作品

に対する自分の考えをまとめることができる。

作品の中で最も重要な関係をまとめよう。

なぜその関係が重要なのかを説明する際に、選んだ関係と他の関係を比較したり、関連付けたりする必然性が生まれる。

人物関係図で相互関係が視覚化されていることによって、子どもたちは根拠をもって自分の読みをまとめることができる。

5 読みを深めるための言語活動

人物関係図の利点は、関係という不確定なもの、それぞれの距離や図の形状によって確定していることである。しかしながら、正しい図を作成することは目的ではなく、その過程において読み取りが深まることをねらいとしている。

人物関係図は、思考のきっかけや手立てと位置づけられる。作品の概要把握、思考の焦点化、交流の観点提示など、さまざまな活動に活用できるだろう。

「紅鯉」は、さまざまな立場の登場人物が主人公を中心に関係を築いている。だからこそ、主人公に対する立場や影響を、比較したり関連させたりすることができる。人物関係図に表す活動は、そのための言語活動である。

三省堂『小学生の国語』「読むこと」の教材一覧

	説明文		物語	
	教材名	筆者	教材名	作者
1年	しっぽしっぽ ぼうしのはたらき なにができるかな	堀浩 横矢真理 中村智彦	にくをくわえたいぬ どうぞのいす おおきなかぶ あいしているから いなばの白ウサギ 夕日のしずく	川崎洋 香山美子 A・トルストイ M・ニューマン 宮川ひろ あまんきみこ
2年	つばめのすだち たねのたび 紙パックで、こまを作るう	本若博次 中西弘樹 今井美佐	たろうのともだち お手紙 ぎつねのおきやくさま かさこじぞう フレデリック	村山桂子 A・ローベル あまんきみこ 岩崎京子 L・レオニ
3年	米と麦 「農業」をする魚 身ぶりのはたらき	吉田久 新田末広 東山安子	ピータイルねこ うさぎのさいばん わすれられないおくり物 おにたのぼうし	岡田淳 キム・セシル S・バーレイ あまんきみこ
4年	打ち上げ花火のひみつ 月のかけ絵 じゃんけんの仕組み	冨木一馬 藤井旭 加藤良平	白いぼうし いわたくんちのおばあちゃん ごんぎつね あたまにつまった石ころが	あまんきみこ 天野夏美 新美南吉 C・O・ハースト
5年	「十秒」が命を守る 動物の「言葉」 人間の「言葉」 コウノトリが教えてくれた	松森敏幸 池上嘉彦 池田啓	カニモトくん 競走 洪庵のたいまつ 大造じいさんとガン	ときありえ 佐藤雅彦 司馬遼太郎 椋鳩十
6年	宇宙時代を生きる 「なべ」の国、日本 猿橋勝子 二十一世紀に生きる君たちへ	野口聡一 渡辺あきこ 堀切和雅 司馬遼太郎	竜 紅鯉 まほう使いのチョコレート・ケーキ 雪わたり	今江祥智 丘修三 M・マーヒー 宮沢賢治

三省堂 国語教育

ことばの学び
a new way of learning Japanese

『小学生の国語』臨時増刊号
特集 読みの力を高める学習指導 vol.2

2014年3月15日発行

- 編集・発行人 北口克彦
- 発行所 株式会社 三省堂
〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14
TEL 03(3230)9410 [編集] 9551 [営業]
URL <http://www.sanseido-publ.co.jp/>

